

## 友好都市デンマーク王国・ファボー・ミッドフュン市での交流 平成22年度登別市中学生海外派遣事業



訪問団は、8月16日に6泊7日の予定で出発しました。派遣される6人の生徒たちは、初対面にもかかわらず10回の事前研修を通し、親ぼくを凶りながら気持ちを一つにし、出発の準備を整えました。

成田空港から11時間の飛行後、コペンハーゲンに到着し、翌日は、童話作家アンデルセン生誕の地であるオーデンセで、ヘンリエッテ・ヘアルーク校（私立の小中一貫校）を訪問し、折り紙や鬼踊りで、同校の生徒たちと交流しました。その後、ファボー・ミッドフュン市に移動し、4日間ホームステイをしながら現地の人びとと交流を深めました。滞在中は、ホストファミリーの子どもたちとリング・フリー校（私立の小中一貫校）に通学し、同級生と授業やスポーツを楽しんだり、登別マリナーパークのモデルとなった『イーエスコウ城』や図書館、老人ホームなどを見学しました。

現地での訪問団の受け入れは、事業開始当初からファボー・ミッドフュン・登別友好協会（リズイ・サンダー会長）が全面的に、また、万全の体制でサポートしてくれることから、安心して派遣することができます。

今年度も、中学生たちはデンマークの現状や文化を肌で感じ、日本との違いや共通点を実感したことで、それぞれが持っていた研修目標を達成することができました。

帰国後、中学生は報告書の作成や各学校での帰国報告会に向け準備に取り掛かっています。報告書は完成後、市のホームページに掲載します。



平成9年派遣  
西村佳奈子さん

み英語力を身につけ、海外に派遣されることを望んでいますし、派遣先で救助活動に励みたいと思います。

高校を卒業後、自衛隊に入りました。きっかけは、外国に派遣される時代にもなったことや医療にもかかわりたかったので両方できる自衛隊に進みました。自衛官はハイチへの救援、ゴラン高原への派遣などがあり、現地において医療班は、外国の兵士の看護などをします。通常の勤務では、医療にかかわるだけではなく、部隊に出、迷彩服を着て訓練を受けることもあります。英語とは、今後もずっとかかわりたいと思います。まずは、半年間行われる英語過程に進



平成10年派遣  
黒須博之さん

その経験が生きていると思います。同期の友人は、デンマーク語で歌を歌い、デンマーク人と会話することができ、人との輪が広がったと言っています。

中学生派遣事業に参加してから、登別デンマーク協会に入会し、多くの活動に携わっています。デンマークから市民や研修生が登別を訪れるときには、積極的に交流を続けています。現在、帯広の病院に勤務していますが、英語は避けて通れないです。デンマークで経験したことと、病院での勤務はあまり関係がありません。しかし、派遣されたことが、外国へ目を向けるきっかけになったことは、間違いありません。また、人とのコミュニケーションを取ることで、



「先輩たち」が語る  
登別市中学生海外



平成12年派遣  
山田奈央子さん

中学生の時は、英語が得意でなかったのですが、派遣によってデンマークを訪れた時は、ホストファミリーと会話ができず、大変悔しい思いをしました。そのため、英語の勉強に力を入れ大学へ進学後は、1年間アメリカに留学し文化や英語を学びました。この間、デンマークでの悔しい思いをバネにして、一生懸命、自ら積極的に交流をしました。私が海外に興味を持てたのは、中学時代の派遣があったからこそです。外国に行ったことで、自分に自信がつき、視野が広がり仕事をしていくうえでの財産となり、本当に良い経験をさせていただいたと思います。



平成20年派遣  
安居綾香さん

わたしは平成20年度の派遣生です。もともと外国の人とのかかわりを持つことが好きでしたが、あまり自信がなく交流ができませんでした。デンマークに派遣されたことで、自信につながりました。今年2月に、サイパンからの中学生のホストファミリーを引き受けました。今後も少しずつこのような経験を積んで行きたいと思います。今日、先輩の皆さんのお話を聞いていると、デンマークに派遣されたからこそ、今の皆さんがあるのだなと思いました。わたしも、派遣された時の経験を生かし、先輩のようになれたらいいなと思いました。